

# 東部保健所 国東地域(国東市・姫島村)感染症情報

令和6年第19週(5月6日～5月12日)

## ・手足口病について

東部保健所国東地域では手足口病患者の報告数が増加しました。

手足口病は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス感染症で、幼児を中心に夏季に流行が見られます。感染は、排出されたウイルスが手を介して口に入ることによるもの(経口感染)、せきやくしゃみによるもの(飛沫感染)や接触感染で起こり、潜伏期は3～4日程度です。

有効な抗ウイルス剤などはありませんので、手洗いの励行などの予防が重要です。口の中の症状が強くなったときには、水分不足にならないように注意が必要です。特に、乳幼児のいる家庭は十分注意して下さい。

## ・RSウイルス感染症について

県内では第16週(4/15～4/21)からRSウイルス感染症の流行期に入ったと判断されました。

RSウイルス感染症は、RSウイルスを病原体とする呼吸器の感染症です。何度も感染と発病を繰り返しますが、生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の児が感染するとされています。2～8日(多くは4～6日)の潜伏期間を経て発熱や鼻水、咳などの症状が数日続きます。多くは軽症で自然軽快しますが、細気管支炎や肺炎等に重症化することもあります。特効薬はなく、基本的には対症療法(症状を和らげる治療)を行います。RSウイルス感染症の感染経路は接触感染と飛沫感染です。こまめに流水・石鹸による手洗いやアルコール製剤による手指衛生が重要です。また、鼻汁、咳などの呼吸器症状がある場合はマスクが着用できる年齢の子どもや大人はマスクを使用することが大切です。

(第19週)

疾患名 年齢	インフルエンザ	新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘(みずぼうそう)	手足口病	伝染性紅斑(リンゴ病)	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	マイコプラズマ肺炎	麻疹(全数報告)	風しん(全数報告)	百日咳(全数報告)	つつが虫病(全数報告)
0歳								2.00									
1～3歳				1.00				8.00					1.00				
4～6歳																	
7～9歳																	
10～14歳																	
15～19歳																	
20歳以上		3.00															
今週		3.00		1.00				10.00					1.00				
70歳以上(再掲)		0.20															
先週	0.50	1.50		2.00	3.00	1.00		1.00				1.00					

指定された医療機関(定点)から報告された患者数を、1定点あたりに換算して計上しています。

(定点医療機関数:インフルエンザ/COVID-19定点 2、小児科定点 1)

疾患ごとの警報・注意報の基準値

※単位は定点あたり報告数

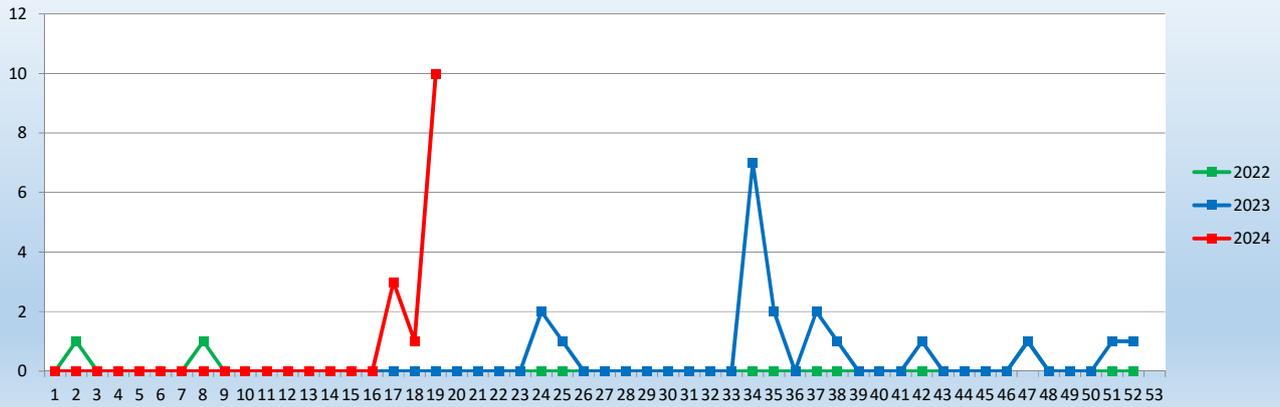
	警報レベル		注意報レベル
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30.0	10.0	10
咽頭結膜熱	3.0	1.0	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.0	4.0	-
感染性胃腸炎	20.0	12.0	-
水痘	2.0	1.0	1
手足口病	5.0	2.0	-
伝染性紅斑	2.0	1.0	-
ヘルパンギーナ	6.0	2.0	-
流行性耳下腺炎	6.0	2.0	3
急性出血性結膜炎	1.0	0.1	-
流行性角結膜炎	8.0	4.0	-

警報レベル:大きな流行が発生または継続していると疑われることを指します。

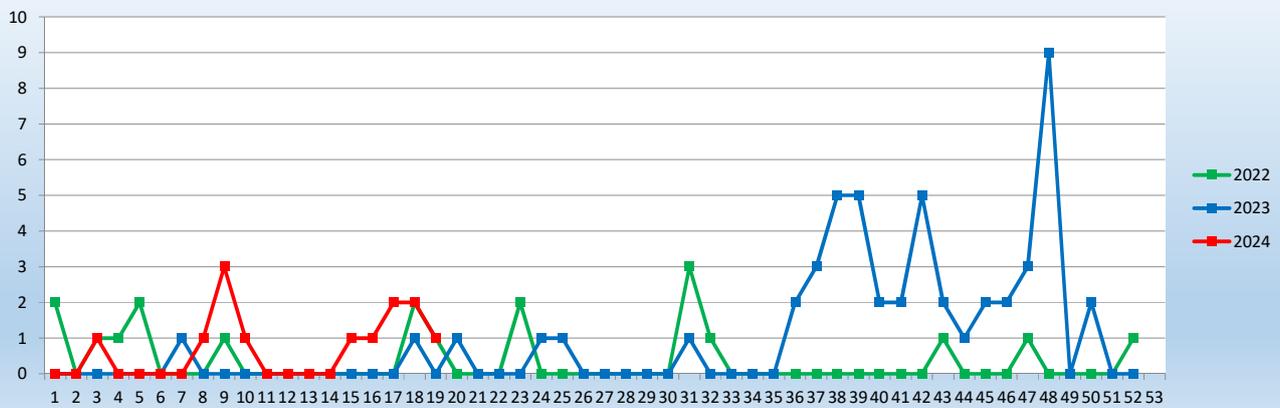
注意報レベル:流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

## 過去3年間の発生動向(国東地域)

定点当たり報告数 手足口病



定点当たり報告数 咽頭結膜熱



定点当たり報告数 新型コロナウイルス感染症

